

■位置・地勢



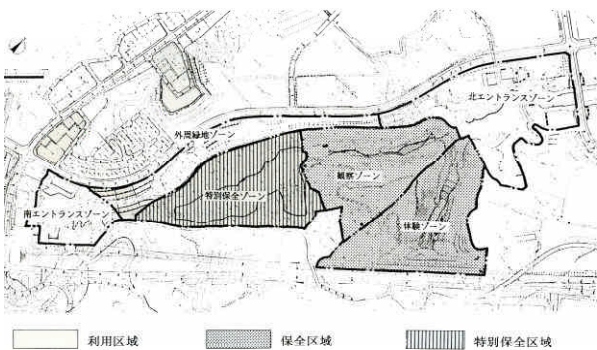
長池正面からの景観

- ・八王子市南西部、由木地区別所にあり、多摩ニュータウン西部地域において、最も大規模に多摩丘陵の原地形が保全された地区公園です。
- ・八王子市中心市街地より直線距離6～7km、京王堀之内駅から1.5km、南大沢駅より約1kmほどの距離にあります。

■水系・面積・地質

- ・多摩川水系大栗川支流、別所川の源流部にあたる流域、約20haを占めています。
- ・多摩丘陵西部(多摩I面:標高132～168m)に位置し、地質は上総層群(連光寺層上部泥層・御殿峠層)、関東ローム層から構成されています。

■ゾーニング



《利用区域》

北エントランスゾーン: 4.0ha (築池3,500㎡を含む)
南エントランスゾーン: 1.5ha 外周緑地ゾーン: 2.0ha

《保全区域》

体験ゾーン: 4.0ha
観察ゾーン: 3.7ha

《特別保全区域》

特別保全ゾーン(サンケイチュアリ):
4.0ha(長池2,000㎡、ハンノキ林0.1haを含む)

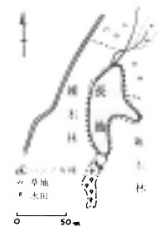
■長池公園の歴史的経緯

- 1820年(文政3)
『武蔵名勝図絵』(植田孟 1820)によれば、文政の頃、当地内にぬなわ=ジュンサイ、河骨=コウホネが繁茂していた事が記されている。
- 1959年(昭和34年)
9月20日、浅川流域文化財総合調査の一環から、本田正次・畔上能力両氏を中心に長池地域の植物現地調査が実施される。
- 1961年(昭和36)
南多摩文化財総合調査報告第1分冊—多摩丘陵の文化財—『多摩丘陵植物調査報告』(東京都教育委員会1961)において、「由木村長池は、水生ならびに水湿地の植物に富み、スイレン(ヒツジグサ)・ヒルムシロ・カンガレイ・アキノウナギツカミ・ミズオトギリ・サワギキョウ・ジュンサイ・オモダカ・ウキヤガラ・ミズユキノシタなどがある。特にジュンサイ・ミズオトギリ・サワギキョウの3種は、練馬区上石神井の三宝寺池が唯一知られた生育場所であったことから、これに次ぐ水生植物の産地として貴重な箇所である。」との特記事項が記載される。



サワギキョウ↑

- 1967年(昭和42)
旱魃で長池の水を吐出し、池内の水生生物はすべて消滅する。
- 1969年(昭和44)
「多摩ニュータウン開発地域の植生学的研究」宮脇昭・日本住宅公団により、長池・蓮生寺周辺緑地保存の必要性が提言される。
- 1972年(昭和47)
「東京及びその周辺のハンノキ林」(鈴木由告・新井二郎)により、長池のハンノキ林の重要性が指摘される。
- 1975年(昭和50)
八王子市自然友の会、東京都知事宛に、多摩ニュータウン地域内に自然を残すための要望書提出、湧水池と湿生植物の保護を訴える。
- 1978年(昭和53)
「多摩ニュータウンB-4地区蓮生寺・長池周辺保全整備計画」日本住宅公団が策定され、市民団体を交えた保全整備計画委員会が発足。長池ハンノキ林、環境省特定植物群落に指定される。
- 1979～82年(昭和54～57)
住宅都市整備公団(現都市機構)、八王子市自然友の会が、別所谷のカタクリを1000株ほど移植。(1983～85年にかけても実施)



- 1978年(昭和53)
「多摩ニュータウンB-4地区蓮生寺・長池周辺保全整備計画」策定、現在の里山保全整備計画の骨子が示される。
- 1993年(平成5)
四谷見附橋(1913年竣工)の架け替え(1983年)に伴い、資材を利用して長池公園北端に長池見附橋として移築復元される。
- 1999年(平成11)
体験ゾーンにおける里山活動を担う市民活動団体「長池里山クラブ」発足。
- 2000年(平成12)
長池公園開園。
- 2001年(平成13)
体験学習施設・長池公園自然館(長池ネイチャーセンター)竣工開館。

■長池公園の自然特性

●植 生

【雑木林】公園内の既存樹林地の大半は、薪炭林あるいは農用林として人の生活に利用されてきた雑木林です。雑木林を構成している樹種は、関東地方南部の丘陵地に広く見られるコナラやクヌギ、ヤマザクラ、ホオノキ、エゴノキなどで、植生学的にはクヌギ-コナラ群集と呼ばれています。林床には、アズマネザサが広範囲に生育していますが、ムラサキシキブ、ガマズミ、ウグイスカグラ、ヤマツツジなどの低木類、ミヤマナルコユリ、キンラン、タマノカンアオイなどの草本類が四季を彩ります。

【ハンノキ群落】特別保全ゾーンの長池源流部に成立している0.1%ほどの湿性自然林で、1978年、環境省の特定植物群落に指定されています。高木層にはハンノキが優占し、林床の湿地にはイボタノキやメギなどの低木類、ミヤマシラスゲ、マツバスゲ、トウゴクヘラオモダカ、シラゲヒメジソなど、特徴的な植物が生育しています。



冬のハンノキ林↑

【多様な湿地植生】多様な水辺環境を反映して、ヨシ群落、オギ群落、コガマ群落、ミヤマシラスゲ群落、カサゲ群落、ウキヤガラ群落、ミゾソバ群落など、さまざまな湿生植物群落が見られます。

●植物相

公園内の自生植物の種類数は718種(植栽園芸種を除く)に達しています。これは、林縁部の林床草本や草地、そして湿地に生育する植物の多様性がきわめて高いためであり、タマノカンアオイやマメザクラなどの地域固有性の高い植物、またサクライカグマ、マキエハギ、サワギキョウ、ノハナシヨウブ、コマツカサス

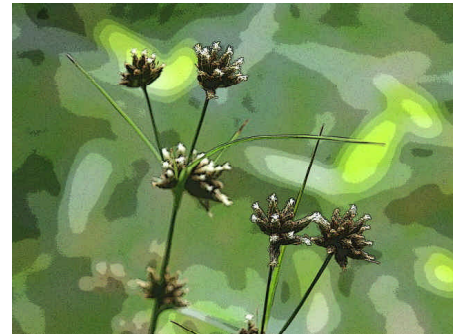


マメザクラ↓



タマノカンアオイ↑

など周辺域で見かけることが稀となった植物が公園内で適切に環境管理されている結果であると考えられます。長池にはかつて、ジュンサイやコウホネ、ヒツジグサなどの水生植物が繁茂していましたが、ミズトンボ、クロツバラなどの植物とともに絶えてしまいました。この歴史的な事実を踏まえ、長池公園ではこれ以上野生植物の絶滅を招かないよう、以下の植物を保全対象植物として指定し、その生育状況をモニタリングしながら保護と増殖を図っています。



↑湿地に生育するコマツカサススキ

《現在、長池公園内で保全対象としている植物(主なもの)》

○シダ植物/ミズニラ・オクタマゼンマイ・サクライカグマ・キヨスミヒメワラビ・マルバベニシダ

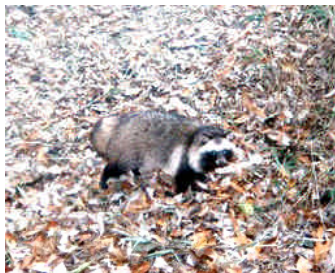
○双子葉植物/離弁花類: ジャヤナギ・カラハナソウ・フサザクラ・タマノカンアオイ・アズマイチゲ・サルナシ・ミズオトギリ・ノリウツギ・マメザクラ・クマイチゴ・クララ・アリアケスミレ

○合弁花植物: ヤブムグラ・シラゲヒメジソ・イガホオズキ・アブノメ・コバノガマズミ・ニシキウツギ・ツクパネウツギ・サワギキョウ・オオニガナ・アズマヤマアザミ

○単子葉植物/トウゴクヘラオモダカ・イトトリゲモ・カタクリ・コオニユリ・シュロソウ・アマナ・ヒロハノコウガイゼキショウ・ヤマズメノヤリ・ジュズスゲ・ヤワラスゲ・マツバスゲ・ホシナシゴウソ・ミコシガヤ・コマツカサススキ・ウキヤガラ・エビネなど

●哺乳類

中型の哺乳類としてアナグマ、タヌキ、ノウサギ、ハクビシンの生息が確認されています。小型哺乳類では、飛翔するアブラコウモリ、そして地中生活のアズマモグラ、ヒミズが生息しています。なお、ネズミ類についてはまだ調査が行われていません。



夜間撮影装置にとらえられたタヌキ→

●鳥類

これまでに78種の鳥類が長池公園で確認されています。水辺ではアオサギやカワセミ、カルガモ、セキレイの仲間、林縁部ではモズやジョウビタキ、アオジやエナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、ルリビタキなどが採餌に現れます。背の高い草地や藪にはキジ、コジュケイなどが生活しています。近年では外来種のガビチョウの個体数が増加しています。

●爬虫類

蛇類はアオダイショウ、ヤマカガシ、シマヘビ、ジムグリの4種の生息が確認されています。また、カナヘビとニホンカゲも生息しています。築池と長池には、ミドリガメが放され野生化したミシシッピーアカミミガメが多数生息しているほか、少数ながらクサガメが生息しています。

●両生類

アズマヒキガエル、ヤマアカガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、アズマヒキガエル、そして外来種のウシガエルが生息しています。カエル繁殖用の池の整備により、2007年3月、アズマヒキガエルの産卵が初めて確認されました。食物連鎖の重要な位置にある両生類の生息環境回復は、公園の生物管理の重要項目の一つです。



産卵が確認されたヒキガエル↑

●魚類、その他の水生生物

長池と築池を中心にコイ、ギンブナ、トウヨシノボリ、オオクチバス(ブラックバス)、ブルーギルなどの魚類が生息しています。また、姿池から下流のせせらぎ水路では、ドジョウやモツゴ、クロメダカなどが見つかることもあります。なお、ホトケドジョウは生息環境に適した湧水が随所にありながら、生息を確認することができないのは不思議です。甲殻類では公園全域の水辺にアメリカザリガニが定着しているほか、在来甲殻類であるヌカエビも生息しています。なお、2005年より、夏から秋にかけて、築池でマミズクラゲが見つかるようになりました。



姿池にも生息するブルーギル↑

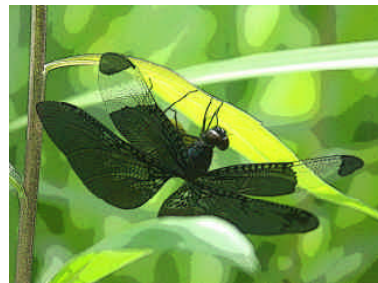
●昆虫類

公園内は昆虫が豊富に生息しており、カミキリムシ類やカメムシ類などでは、非常に多くの種類が確認されています。ここでは、長池公園を代表する昆虫類として、トンボの仲間とチョウの仲間、またホタル類についてふれます。

【トンボの仲間】

これまで、公園内で40種を超えるトンボが確認されています。春先に湿地に現れるシオヤトンボ、真夏の水田の稲の間を飛ぶキイトンボ、暗い水路を行き交うオニヤンマなど、季節を追ってさまざまな種類を目にすることができます。なかでも、初夏に現れるコサナエやハンノキ林に生息するサラサヤンマはたいへん貴重なトンボです。トンボの幼虫や成虫を餌とするブラックバス、アメリカザリガニ、ウシガエルなど、外来生物の繁殖を抑えていくことが課題となっています。

羽化したばかりのチョウトンボ↓



【チョウの仲間】

公園内では70種を超える蝶が見られます。とりわけ、シジミチョウ科のゼフィルス類6種(ミドリシジミ・オオミドリシジミ・ウラゴマダラシジミ・アカシジミ・ウラナミアカシジミ・ミズイロオナガシジミ)が生息している場所は周辺域でも非常に少なく、長池公園が多様な自然環境が残された場所であることを物語っています。これらの生息環境を良好に保全していくことが昆虫相全体の保護につながるものと考えています。



ハンノキの葉にとまるミドリシジミ↑

【ホタルの仲間】

残念ながら、現在の長池公園には、ゲンジボタルやヘイケボタルが生息しているという確実な報告はありません。しかし、成虫の発光しないホタルの仲間がいくつか見つかっています。オバボタル、クロマドボタル、ムネクリイロボタル、そしてスジグロボタルの4種です。とりわけ、スジグロボタルの生息場所は周辺域でも少なく、大切にしたい貴重な甲虫です。幼虫は湿地にすみ、カワナなどの貝類を食べて育つことが知られています。



交尾するスジグロボタル↑